

2014年(平成26年)8月29日

スポーツチャレンジ助成事業  
平成27年度(第9期生)助成対象者募集について  
— 新規プログラム「スポーツチャレンジNEXT」を設定 —

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(Yamaha Motor Foundation for Sports)では、スポーツを通じて世界にはばたく逞しい人材の育成を目的に、平成27年度(第9期生)「スポーツチャレンジ助成(体験/研究)」、「国際スポーツ奨学金(海外留学生/外国人留学生)」、そして本年度のみ設定した次世代を担うアスリート支援を目的とした「スポーツチャレンジNEXT(体験)」の募集を、2014年9月1日～11月17日まで実施します。

今回設定した「スポーツチャレンジNEXT」は、次世代を担うアスリート支援を目的に中学生以上の男女及び、これによって構成されるグループ・団体を対象とし、高い志、明確な目的・目標を持ったチャレンジを募集します。

同プログラムは、平成25年度に実施した第6回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞において、奨励賞を受賞した「東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会戦略広報部」が賞金を辞退されことを受け、その意向により、次世代を担うアスリートの支援に活用するものです。

なお、本年度の助成(平成26年度/第8期生)は、スポーツチャレンジ助成が28件、2,632万円、国際スポーツ奨学金が4件、480万円(1年分)で、合計3,112万円の実績です。

■助成プログラム

	スポーツチャレンジ助成	国際スポーツ奨学金	スポーツチャレンジNEXT
プログラムの種類	体験助成 研究助成	海外留学生 外国人留学生	体験助成
助成・給与期間	1年間(上限100万円)	最長2年間(月10万円)	1年間(上限50万円)
件数(目安)	基本助成(体験/研究):各10件 継続助成①(体験/研究):計5件 継続助成②(体験/研究):計3件	各若干名	4～5件程度

■助成プログラムの特徴:プロセス重視の独自プログラムによるプログレス支援

■募集期間:2014年(平成26年)9月1日(月)～2014年(平成26年)11月17日(月)

■審査・発表:書類選考による1次審査及び面接による2次審査を経て2015年(平成27年)2月に決定

■ この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください ■

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS) 事務局: 担当・石塚

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500番地 Tel: 0538-32-9827 Fax: 0538-32-1112 <http://www.ymfs.jp>

## ■助成プログラム詳細

### [スポーツチャレンジ助成]

**基本助成(体験):**アスリート、指導者、審判、スポーツジャーナリストなど、スポーツに関連する幅広い分野から、高い志、明確な目的・目標、そして具体的なプロセスを持った、チャレンジスピリット、フロンティアスピリットあふれる体験活動に対して助成金を交付(10件程度/1件につき上限100万円)。

**基本助成(研究):**スポーツ医・科学、スポーツ文化など、スポーツに関連する幅広い分野から、スポーツの普及・振興や競技水準の向上につながる学術的価値の高い学問・研究活動に対して助成金を交付(10件程度/1件につき上限100万円)。

**継続助成(体験/研究):**基本助成の修了後2年以内の方を対象とした継続助成①(5件程度・1件につき上限100万円)と、継続助成①の修了後2年以内の方を対象とした継続助成②(3件程度/1件につき上限100万円)に対して助成金を交付。

### [国際スポーツ奨学金]

スポーツの普及・振興や競技水準の向上にかかわる学問・研究を目的に、海外へ留学する日本人大学生及び大学院生を対象とした「海外留学生奨学金」、日本国内の大学及び大学院で学ぶ外国人を対象とした「外国人奨学金」それぞれに奨学金を給与(各若干名/月額10万円)。

### [スポーツチャレンジNEXT]

次世代を担うアスリート支援を目的に、高い志、明確な目的・目標を持ったチャレンジに対して助成金を交付。応募申請には日本オリンピック委員会(JOC)、日本パラリンピック委員会(JPC)に加盟する競技団体の強化担当者による推薦が必要(4~5件程度/1件につき上限50万円)。

## ■(ご参考)ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞について

ヤマハ発動機スポーツ振興財団が、スポーツ振興において多大なる実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物・団体を表彰する制度です。スポーツに関する幅広い分野において、高く評価されるに相応しい功績をあげ、かつこれまで注目を浴びることの少なかった「縁の下の力持ち」的な人物・団体にスポットをあてています。

第6回では、「功労賞」としてスポーツ用義足の第一人者である臼井二三男氏、「奨励賞」として戦略広報という立場から東京2020招致を支えたプロフェッショナルである「東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会戦略広報部」を表彰しました。